

過去の企画展より **教科書に登場する人たち** 平成22年3月12日～6月21日

明治時代から現在までの教科書の中には、様々な人物像が見られます。この企画展では、京都市立学校・園の所蔵する美術工芸品の中から、それらの人々にちなんだ、絵画や人形や彫像、また揮毫された書などを中心に展示しました。作品の横には教科書の頁の写真パネルを添えました。

全ての人物に緻密な説明をつけることまではできませんでしたが、視覚的に楽しみながら、日本の歴史や教育の変化も感じていただけたことと思います。神代の人物や桃太郎や二宮金次郎は現在の教科書では見られませんが、一方、近年注目されている坂本龍馬は、明治時代の教科書ではあまり見られませんでした。楠木正成や豊臣秀吉は、現在でも日本史に欠かせないけれども、かつては、客観的な歴史の記述だけではなく、楠木正成は「忠臣の鑑」として讃えられていましたし、豊臣秀吉は主人によく仕え皇室を尊んだ理想的な人物として語られていました。

当館ならではの、この企画展を手がかりに、もっと分析・考察をすすめて、いずれまた新たな企画展を開催したいと思います。



押絵屏風 乾隆実務女学校生徒作品 乾隆小学校蔵



桃太郎図 猪飼嘯谷 元 滋野中学校蔵

坂本龍馬像
公方菊僊 中島気峰
室町小学校蔵

過去の企画展より

町衆のエネルギー！

～京都・番組小学校展～

平成21年12月8日～
平成22年3月8日

この企画展では、64校の番組小学校遺物を公開し、開校当初の様子や、教育を紹介することを目的としました。

明治2（1869）年の番組小学校開校に至るまでの京都府と各町組とのやりとりは、「京都府庁文書」や、各町に残る古文書が語ってくれました。そこには、京都府と町衆と、どちらか一方が欠けても学校建設が成り立たなかったと思われるほどの強固なパートナーシップと、お上（京都府）の方針に対してもはっきり物申す「町衆」の心意気が見てとれました。

今回新出の「上京第二十七番組小学校（旧柳池小学校）平面図」は、開校当初の図面です。ここには、校舎内に巡査や区長の詰所がおかれていた様子が画かれており、この図面が、開校当初の校舎を物語る唯一の資料です。

小学校の維持運営方法についても興味深いことがわかりました。京都府は、各町組に対して、備米を元手とした会社を設立し、地元へ産業振興のための資本を貸し付けて、その利潤で小学校の維持・運営を行うことを奨励していました。

今回展示した借用証文や町の金銭出納帳などから、貸し付けは、個人よりも主に町単位で行われていたことがわかりました。また、会社自体も、運用資本の確保のために町から資金を借用しており、学校の運営をめぐる資本運用は、一方向だけのものではなく複雑であったようです。いずれにしても、まだまだ文書を読み解いていく必要があると思います。

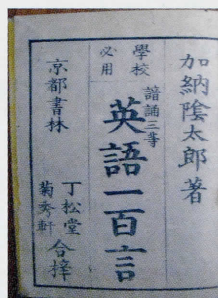
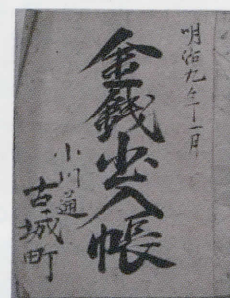
開校当時の小学校で使用されていた教科書は、当館にも数多く所蔵されていますが、今回展示した「学校必用英語一百言」という英語の教科書は、明治6（1873）年から京都で英語教育が始まったことを裏付ける大変貴重な資料です。この教科書を使って、子どもたちが馴れない英語の勉強に悪戦苦闘している様子がうかがえます。

今回の展示で改めて感じたことは、学校建設にかけた「町衆」のエネルギーの大きさと学校への愛情の深さです。それは、今でも学校に関わる資料が「たからもの」として、学区や個人で保管されているということからもわかります。

今後も先人の残した功績を大切に守り続けていくことが、我々の役割といえるのではないのでしょうか。



「明治10年築の望火楼」 元 梅屋小学校提供

「学校必用 英語一百言」
神田外語大学付属図書館蔵「古城町金銭出入帳」
京都市学校歴史博物館蔵